

みずみどり

2018年 9月15日 第128号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

秋の野の花をさがそう

あなたにとっての秋の七草は？

秋の七草—尾花（すすき）、桔梗（ききょう）、女郎花（おみなえし）、なでしこ、萩、葛（くず）、ふじばかま—は、昔は普通に見られたと思いますが、今は公園も道路も草刈られて、野の花は身近に見られなくなりました。私たちも忙しくなって見ようとしなくなったのかもしれないね。散歩がてら身近な秋の野の花を探してみませんか。



左上：クズ：秋の七草。マメ科のツル植物で成長は旺盛で嫌われているが、よい香りの花がつく。
 右上：ヘクソカズラ。葉を揉むと臭いがするが、屁や、糞のようなひどい臭いではない。かわいらしい花をつけ、芸術的な種は野鳥のご馳走に。
 左下：ヨウシュヤマゴボウ（北アメリカ原産）成長は早くすぐに1m以上になる大型植物。ヤマゴボウという名前がついているが有毒。赤紫の実、子どもの頃遊んだ「色水屋さんごっこ」を思い出す野草です。



写真左上：カラスウリ ツル植物、レースのような縁の白い花に出会うと感動します。夜咲いて昼間はしぼんでしまうので、夜の散歩で出会えます。秋の終わりから冬に枯れたツルに3 cm程の赤い実がぶら下がっています。雌雄異株なので、実をつけるのは雌株だけ。

写真右上：ヒルガオ ピンクの花を長い季節咲き続け、秋にもみられる。

写真左下：セイトカアワダチソウ 北アメリカ原産、大群落をつくり、花粉症の原因になると騒がれたが、花粉症の犯人ではないことがわかった。繁殖力が強くあちこちでがんばっている。バッタ広場でも適宜抜いているが、生き残って咲く黄色い花は豪華で虫たちも集まる。

写真右下：ヨメナ 秋の野菊。写真を撮った場所（西台公園）ではもうずっと見ていない。区内のどこかで咲いていると思いますが。

赤塚城址のバッタ広場では、まちなかで見られない秋の野の花も咲いています。ヌスビトハギ、ミズヒキ、キンミズヒキ、アキノノゲシ、ガガイモ、ヒメジソ、ハエドクソウ、それからヒメジヨオン、ツユクサ。花と思えないイノコズチの地味な花穂に虫のコアオハナムグリが蜜を吸っていたことがあったし、花なのか、種になったのか区別がつかないイネ科の植物たち一オヒシバ



写真左：メヒシバ 群生していることが多く、細い線のような花穂が交錯して風に揺れている、夏から秋の風景。

写真右：エノコログサ（ねこじゃらし）：緑色ばかりでなく、金色や、紫がかったものも。

カゼクサ、チカラシバ、オギ（ススキの仲間）、写真上のメヒシバ、エノコログサなども太陽の下で、のびのびと育っています。これらのイネ科の植物も秋の野草に入れたい。

さて、いつ刈られるかわからない、明日の命もわからない雑草たちですが、それぞれに美しいです。それほどの有害ではないように思うのですが？

板橋エコ未来塾に参加

その1 前野公園の観察会

エコポリスセンターの連続講座「板橋エコ未来塾」に瀬田さんと参加しています。いたばし水と緑の会は赤塚で自然を守る活動をしていますが、いろいろな視点で環境を考え、他の参加者と交流し、エコポリスセンターの環境事業にも関わっていこうというのが参加した動機です。

6月30日は、「環境教育入門」というテーマで秦範子先生の講義と前野公園でのフィールドワークでした。講義を聴いて思い出しました。かつて環境問題と言えば公害問題でした。長い年月がかかりましたが排出規制により新しい公害は一応なくなり、大気汚染物質の濃度も低下（火力発電所による汚染再発の心配をする人もいるが）、下水道の整備によって川の水もきれいになり、公害問題のことをすっかり忘れていました。そして、公害から「持続可能な開発」にテーマが移ってきました。ESD、SDGsという言葉をよく見聞きします。ESDは「持続可能な開発のための教育」という意味であることは知っていましたが、SDGsは何の略語かわかりませんでした。「持続可能な開発目標」だそうです。Gsはゴール（の複数）です。地球環境も地域



の環境もこれ以上悪化させず次世代に引き継いでいくために、行政や企業はしっかりやってもらいたいですね。私建にも消費者としての役割がありますね。自然保護の考え方についての講義の後、「これから前野公園に行って観察します」とおっしゃいます。外は30度以上の暑さ、えーっ、あそこでやるの？前野公園は改修されて木陰が少なくなり、浅いすり鉢状の校庭のような広場です。斜面には芝やツル植物（ツルニチニチソ

ウ？）が植栽されています。この日は、公園の雑草駆除作業中で、暑い中、斜面に生えてきた雑草を1本1本抜き取っていました。この斜面の植栽部には、雑草の月見草やエノコログサなどが旺盛に茂り、見応えのある緑の景観でしたが、公園に雑草は不許可、排除の対象です。駆除されて雑草のなくなった公園で、先生はまず「目を閉じて、何か聞こえますか」と問いかけます。静かに目を閉じると、カラスの鳴き声、ヒヨドリの声、人の声、足音、風の音、葉ずれの音などが聞こえました。次に、ビンゴカードを使ってカードにある特徴の動植物（自然）を探しました。幹に縦縞模様のある木、両手で抱えきれない木、花、虫、トゲのある葉、実、手のひらより大きな葉等々の項目をグループで探し、あれば○をつけます。「手の平より大きな葉ってある？」「タケネグサが刈られないで残っているといいのだけど」。でもやはり刈られた後でした。「虫は？」アリアがいました。貧しい環境でも探せば何か見付き、暑かったけど結構楽しめました。終わってからエコポリスセンター横の数本のシラカシの木立に移動。公園よりずっと涼しい。どうしてここが涼しいのか、木の下は、木の葉の蒸散作用によって気化熱を奪うため、建物の陰より格段に涼しい、草だって同じ、コンクリートや土より涼しくなりますとのこと。前野公園は、ヒートアイランドの問題、緑の恩恵を反面教師として教えてくれました。

その2 日暮台公園の観察会

9月1日、未来塾の観察会です。講師はテレビで有名な佐々木洋先生、場所は日暮台公園です。佐々木先生の観察会も参加者はグループに分かれて特徴のあるものを探しました。においのあるもの、青いもの、ふわふわしたもの、トンボ、チョウチョ、セミの抜け殻等々です。

日暮台公園は区立の公園の中では比較的自然が残っているところです。が、またまた草刈の後でした。刈り残しのドクダミとヘクソカズラがにおいのあるもの（くさい植物）になり、青いものは、これも刈り残されたツククサが1本、「あった」、「あった」と思わず大声で指さす。前野公園でも日暮台公園でも公園は花壇や植えた木を大事にし、野草は駆除されます。自然の植物は

雑草。まちなかで自然に触れるのも容易ではありません。

でもここでは、セミの抜け殻も、チョウチョも3種類、赤とんぼ（コノシメトンボ）もいました。そして2つのグループがそれぞれタマムシの死骸を発見。2匹も！

タマムシは緑・赤等のキラキラした金属光沢がある甲虫の仲間。先生によるとCDをぶら下げるとカラス避けになるように、キラキラした金属光沢が外敵から身を守るそうです。タマムシはエノキの枯枝に産卵し、幼虫は木の中で育ち、キラキラしたきれいな成虫になり、子孫を残す仕事をして命を終えます。



前野公園の観察会でも、日暮台公園の観察会でも、ビンゴカードやそれに似た手法で、カードに書かれた「もの」をグループで探しました。これはなかなか面白い観察方法でした。自然はどこにでもあるのですが、見ようと思わなければ見えないものです。「見れども見えず」です。見ようと思って見る、時間をかけて見る、と、見えてくるものがあり、そして発見するとうれしくなります。

タマムシの幼虫がすむ日暮台公園のエノキのこと

エノキは街道の一里塚に植えられました。板橋区の志村一里塚はエノキです。大きく育って枝張りがよく、遠くからよく見え、夏は木陰が涼しい木だからでしょうか、エノキ（榎）は木偏に夏、です。

エノキは日当たりのよいところを好み、道路際や日当たりのよい植え込みに芽生えてきますが、木が大きくなってはいけな場所なので、刈られてしまい、自然に芽生えたエノキが大木になる可能性はほとんどありません。なので、今あるエノキは、おおらかな時代に、自然に生えて大きくなった木ではないかと思えます。また、公園改修で伐採されると新しく植えられることはないようです。日暮台公園では斜面林の中にはなくて、道路際や広場側に多く見られます（写真右）。エノキが多いのでタマムシが2匹も見つかったのです。国蝶のオオムラサキの幼虫はエノキの葉を食べます。板橋区ではオオムラサキは絶滅しましたが、オオムラサキの仲間であるゴマ



ダラチヨウがいます。そのエノキも公園管理の中で頻りに枝切りされ（多分タマムシの幼虫も枝と一緒に処分され？）、枝切りだけですまなくて、根元から伐採されてしまうかもしれません。どうか大事にしてほしい。

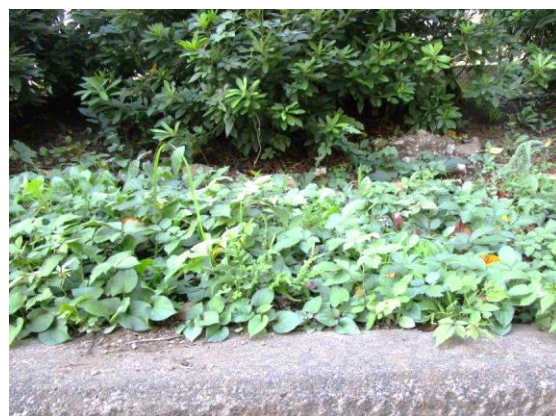
公園の広い草はらの真ん中に大きなエノキの木があって、ロープがふら下がっていて、子ども達がターザンごっこをしたり、木に登って遊べたらいいなあと思うのです（坂本 郁子）。

身近な野草

自宅近くに野の草が残っている所はわずかです。気が付いたところでは、道路の植え込みのサクラやハナミズキやツツジの下、コンクリートの割れ目から出てきて頑張っている草、駐車場の金網のわき、あまり手入れされていないよそ様の庭や植木鉢、家が建てられる前の空き地。いちばん残っているのは公園の植栽に混じったものでしょうか。

8月の道路わきや駐車場のわきのエノコログサは元気に実を付けて、朝はスズメが群れてついばんでいます。メヒシバも茂っています。コンクリートの割れ目から育っているアカメガシワには拍手です。朝の散歩は色々な植物が見られる楽しみがあります。

公園の植え込みにはセンダングサやヨウシュヤマゴボウなど大きくなるものが目立ちます。生えてきてこれはなんだろうと思っているとある日刈られてしまっがっかりすることがあります。



日暮台公園の隅の通路の上にツツジの植え込みがあってつつじの下に隠れるように春になるとホトケノザ、タンポポ、カタバミ、オニタビラコなど小さい草が花を咲かせます。

子供の頃の田んぼのあぜ道みたいだと楽しみにしています。夏になると花は枯れてカタバミなどはよれよれになって細く伸びていたりします。ある日すっかり刈られ、抜かれて、なくなっていました、その後は土がむき出しになって乾燥しています（写真8月初め）。雨が降った後は土が流れて通路が土だらけになっていました。公園として残っているのは斜面地が多いのですから、雨の多い時季をずらして草刈をすとか、土が流れてしまうほどの草刈りはしないほうが良いように思います。

9月に同じところを見たら、ヤブガラシが繁茂していました（写真右）。回復も早い。土も流れ出さず、また雨の流出も少なくなっているはず。それに裸地よりも気温を下げられます。

日暮台公園は何年か前から大きくなった植え込みに冷蔵庫や家具などが捨てられている状態があって、昨年植え込みの大きくなったツツジなどが短く刈られ、目立つ大きなごみは捨てられなくなったようで、刈込の効果はあったように思いますが、つつじの下でそっと咲いている草まで刈ることはないのにと疑問に思っています。

日暮台公園は急な斜面地が多くて斜面の林は、イヌシデ、コナラ、他にシロダモなどのわりと単調な林のような気がします、四季を通して林床にはほとんど下草が生えてなく、むきだしの土になっています、その上秋の終わりにはたくさんの落ち葉が掃除されたり、風に飛ばされたりして土がむき出しになっています、清掃によって表土がなくなり草も生えなくなってしまったようにも見え、コナラやイヌシデの根はむき出しになっているようにも見えます。

水と緑の会では10年近く月に一度観察会をしています。その経験から林縁の住宅に近い部分の草刈りを制限してもらっています。公園の比較的斜面が緩やかなところではクズやササなども茂って7月にはヤマユリの白い花が咲きます。斜面のきつい所に比べると植生は豊に思います。季節によって見られる植物は違ってきますが、年間を通じてここで見られた植物は100種を超えています。夏に見る事ができるものは40種位です、8月はキツネノカミソリが群生してちょっとしたオレンジ色のお花畑でした。地面は色々な植物に覆われていて落ち葉もそのままで土はふかふかです、カマキリやチョウやトカゲもいますよ。

条件は様々だと思いますが、草刈りを制限しただけでかなり変わって行くようにおもいます。

瀬田政江

赤塚公園とんぐりまつり

日時：10月13日（土）10：00～15：00（雨天中止）

場所：赤塚公園 サービスセンター前（板橋区高島平3丁目 グランドのある区画）

いたばし水とみどりの会は下記の自然観察ツアーを担当します。

「とんぐりの森で自然の宝物をさがそう」

出発：1回目 10：15 2回目 13：30（それぞれ1時間程度）

集合：赤塚公園サービスセンター前

エコライフフェア秋

いたばし水とみどりの会は、「種の不思議」の展示に参加します。

日時：10月6日（土）11：00～16：00

場所：エコポリスセンター

活動のお知らせ

運営委員会：9月22日（土）12：30～13：30

10月27日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

11月17日（土）ごろの予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）まで

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

9月22日（土）10：00～11：30 バッタ広場 クズ、外来種の抜き取り

10月27日（土）10：00～11：30 バッタ広場 クズ、外来種の抜き取り

集合は赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

雨天の場合は中止または延期します。連絡先：坂本（090-4618-1295）

2 トンボ池・城址・バッタ広場の自然観察会

日時：10月14日（日）10：00～11：30

11月11日（日）10：00～11：30

集合場所：赤塚トンボ池（板橋区立美術館そば）

持ち物：飲み物、蚊の対策（長袖など）、あれば昆虫網、図鑑、ルーペ、双眼鏡

小雨でも実施します。トンボ池はいつも入れないフェンスの中も観察します。

3 日暮台公園樹林地の観察

10月5日（金）（未定）、11月3日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合（連絡は坂本 090-4618-1295まで）

4 赤塚公園どんぐりまつり

いたばし水とみどりの会は、観察会「どんぐりの森で自然の宝物をさがそう」を実施。

10月13日（土）10：00～ 詳細は7ページ

●ビオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。

作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。